

# 愛知県犬山市



本町通り

(まちづくり団体) 犬山北のまちづくり推進協議会



国宝犬山城のふもとに広がる城下町，犬山城下町地区において，歴史的まちなみの保存と景観の維持を目的として設立された。

構成人数 : 60名 (犬山地区全体の人口 : 31,032人 / H27.1時点)  
活動費用 : 年会費2000円 / 人

## 【まちづくり団体について】

### 1. まちづくりに関わるきっかけを作った人物

#### 地区内の住民

城下町の景観に沿わない建物が建設されていくことに対して懸念を持った人物がキーパーソンとなり，古いまちなみをどのように残していくかを検討するための組織として，犬山北のまちづくり推進協議会が発足した。

### 2. 活動の目的

#### 歴史的資産の 保存・活用

犬山城のふもとに広がる城下町において，町屋等の歴史的資産を活用した商業・観光振興を図り，賑わいのあるまちなみを創出する。

### 3. 関係団体の連携

- 重複会員
- 車山(やま)

犬山北のまちづくり推進協議会をはじめとし，10を超える団体から構成されている。各団体の構成メンバーは重複していることもあり，地域の清掃活動やその他催しごとがある場合の意思疎通が円滑に行われている。

また，地域が一体となって開催する犬山祭りでは，主役である車山(やま)が求心力となり地域の団結力の源となっていることから，行事等を行う際に住民の理解を得やすい。

※車山とは・・・春に行われる犬山祭りで使用される祭車であり，犬山地区は13輦の車山が曳きだされる。

## 1. 現在のまちづくりを行うことになったきっかけ

### 住民による先進事例調査

住民が自ら、まちづくりの先進地事例を視察し、良い点や悪い点を話し合った。

まちづくりが本格的に議論され始めたH3当時は、特に、地区内を分断する都市計画道路の計画について、住民の間でも議論がされた。

結果的に、住民の意識が、古いものを保存し活用することへ向いていった。

## 2. まちづくりの方針転換

### まちづくりの意識転換

住民の意識が、「歴史的資産の保存・活用」へと方向転換されはじめ、これを契機とし地区内を通過する主要な都市計画道路の拡幅計画が廃止となった。

## 3. 参考にしたまち

### 京都府他

景観条例を制定する際に京都府の事例を参考とした。具体的には、通りに面する建物の防火等の制限に対する対応等である。

その他、まちづくりの先進地を視察し、成功事例や失敗事例を直接行政の担当者から聞き取りを行った。

## 4. まちづくりを行う上での肝

### 住民理解と協力

地域住民の理解と協力があってこそ理想のまちづくりが行える。

まちづくりの検討会などを通じて、普段聞けない住民の意見を聞くことも大切。

## 1. 開催の目的

犬山城下町地区のまちづくりの方向性について議論するため検討会が開催されるようになった。初めから最終的な意思決定を行う目的ではなく、住民が意見を出し合うことを目的として、開催された。

## 2. 開催日、時間の決定方法

- ・ 月1回程度の開催
- ・ 日時については、ワークショップ開催時に翌月のスケジュールを決定

## 3. 成果

現在のまちづくりへと繋がるきっかけとなった新町線まちづくり検討会では、地区内を横断する都市計画道路の幅員変更（拡幅）計画について、まちづくりの在り方を議論した。

最初から結論を出そうとするのではなく、様々な意見を出し合うことで、まちづくりの方針を見出そうとした試みである。

結果、住民の意識が古いまちなみの保存へと向かい、道路幅員の変更は実施しないこととなった。

また、まちづくり先進地の視察において、自分たちの地域に置き換えた視点で議論を行ったことで、自分たちが目指すまちづくりが見えてきた。

城下町のまちなみ(本町通り)



どんでん館(車山“やま”が収納)



犬山祭りで使用される車山

## 1. 地域住民との合意形成を図る際の進め方

### 議論の場を設ける

歴史的資産の保存・活用のための活動として、城下町の景観に配慮した道路整備計画の策定や、歴史的な建物の保存、修景事業に対して、官民協働でまちづくりに取り組んでいる。

これらの取組の中で、住民からの意見を出し合い議論する場として、新町線まちづくり検討会を設置し、住民との合意形成を図っている。

## まちづくりについて

### 1. 取り組み前の課題

#### 道路拡幅計画

【まちづくりの方向転換（住民の意識転換）】

地区内で計画されていた都市計画道路の計画幅員を見直し（現行の幅員のままとすること）を行った。

また、歴史的建築物が立ち並ぶまちなみに、近代的なマンションの建設計画が浮上し、住民協議の結果、建物の高さを抑えることになった。

### 2. 行政の役割

#### サポート役

地域住民の提案に対して、できる限りのサポートを行う。（都市計画道路の計画見直しの際には、国や県に理解してもらうため、市で委員会を設置し、納得してもらうまで説明を行った。）

### 3. まちの整備について

- 拠点施設整備（「官」が造り「民」が運営する）
- 電線地中化
- 道路美装化
- まちの修景整備

## 4. まちづくりで活用した補助事業

- ・ まちなみデザイン推進事業(旧建設省)
- ・ まちなみ環境整備事業(旧建設省)
- ・ 身近なまちづくり支援街路事業(国土交通省)
- ・ 暮らしのみちゾーン(国土交通省)
- ・ 都市再生整備計画(まちづくり交付金)(国土交通省)

## 5. まちの整備にあたり、まちづくり団体との関わりや反対者への対応

歴史のみちづくり整備計画策定委員会の意見を反映し、古いまちなみを残すための整備計画を検討した。

また、合意形成を図る際の反対者に対しては、議論の場(検討会)を設置し、個人ではなく町内や団体としての意見集約を行い、納得いくまで議論を行った。

## ワークショップ等について

### 1. 行政の役割

補佐役

まちづくりの検討会を開催した際は、事務局としてサポートし、無理に介入して行くことはしない。

ただし、次につながる議論となるように、どのような議論が行われたかは、議事録として残しておく。

### 2. アドバイザー等の活用の有無

有

歴史まちづくりアドバイザーを東京大学の西村教授にお願いしている。(年1回程度の講演会)

## 1. 行政としてどのようなPRを行っているか。また、その効果について。

### 地元の企業との タイアップ

地元の鉄道業者とタイアップして、大規模なデステーションキャンペーンを実施。

(犬山城の登閣者数)

平成16年 約19万人 → 平成24年 約44万人

## 2. まちなみの維持に関して、どのようなフォローアップを行っているか。

### アダプトプログラム

植栽等はアダプトプログラムを活用し、地元の方々に管理をお願いしている。

※アダプトプログラムとは・・・公共の場所を市民が清掃活動を行うことで管理し、市民と行政が互いの協働により、地区の美化を推進すること。

## その他

## 1. 「まちづくり」と「都市計画」の位置付けはどのように考えているか。

「まちづくり」が始まろうとする時期において、ある程度の方向性を示すのが「都市計画」と考えている。

「都市計画」を基本として、個性を出すことが「まちづくり」と認識している。

## 2. 「まちづくり」を所管する部署

<u>都市計画建築課</u>	⇒	<u>これからまちづくりを行う地域</u>
<u>歴史まちづくり課</u>	⇒	<u>歴史的資産の維持・保全・復元</u>
<u>地域活動推進課</u>	⇒	<u>地域コミュニティ団体等のサポート</u>

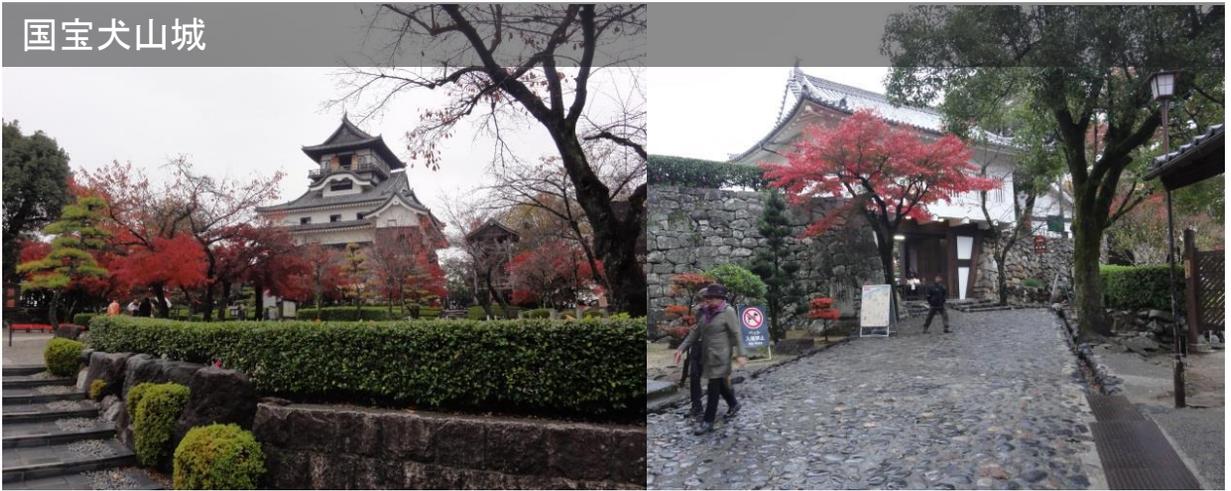
### 3. 地域のPRポイントについて

犬山城

城下町

その他観光施設(明治村, リトルワールド等)

国宝犬山城



城下町のまちなみ(本町通り)

